ATLIA NEWS for TEENS

第３号
2024.2

川口市立アートギャラリー・アトリアから、10 代の皆様に向けた広報誌

CONTENTS

01. ・ごあいさつ
・今後のイベント
02. ・アーティストインタビュー
03. 美術家 市川 裕司さん
04. ・開催講座・展覧会レポート
・SNS やってます！
・施設案内
・編集後記

ごあいさつ

こんにちは。まだまだ寒い日もありますが、暦の上では春となりました。

アトリアでは今年に入って、5 つの展覧会を行いました。
まず「アートな年賀状展 2024」を開催。アトリアの開館以来 17 年続く展覧会で、市民の皆様が思い思いに創作したオリジナル年賀状を展示しました。
「川口の美術家たちのアートな毎日」では、川口美術家協会の有志のみなさんの作品をアトリアの大きな空間を生かして展示しました。
「中学生の ART CLUB 作品展」「川口市小･中･高校生書きぞめ作品展」「川口の図工・美術まなび展」ではそれぞれ小･中･高校生のみなさんの作品を展示し、出品者やご家族の方にもたくさんご来館いただきました。

ATLIA NEWS for TEENS もおかげさまで第３号となりました。
今回のアーティストインタビューは、埼玉県出身の美術家、市川裕司さんです。
市川さんの作品は３月９日から開催する展覧会「アトリアで、春」でもご覧いただけます。
展覧会では、市内の春の風景や、地域ゆかりの作家による春をテーマにした様々なジャンルの作品を展示する予定です。
ぜひアトリアに足を運んでくださいね。

アートギャラリー・アトリアの今後のイベント

展覧会　講座

詳細はホームページ (https://atlia.jp/) や広報かわぐちをご確認ください。
記載している予定は、令和６年２月時点のものです。事情により変更する場合があります。

アトリアHP

3 月

3/9 ―― 3/24
春の企画展覧会「アトリアで、春」
（関連イベント：3/10 初午太鼓演奏）

3/28 ―― 3/31
川口まちこうば芸術祭 2024

4 月

4/9 ―― 4/21
パネル紹介 アーティストってどんな人！？（仮）

4/20 美術講座「静物デッサン」
4/21 美術講座「日本画」

春の企画展覧会
「アトリアで、春」

市所蔵作品や、市川裕司 さんのしだれ桜の大きなインスタレーション作品、工房集のアーティストの作品など を展示します。
期　間：　2024 年 3 月 9 日 (土) ～ 24 日 (日)
入　場：　無料

今回特集記事で紹介する
市川裕司さんの作品も展示します！

パネル紹介 アーティストってどんな人！?(仮)
アトリアで美術講座やワークショップを行っているアーティストや講師のプロフィールや講座内容などをパネルで紹介します。
期　間：　2024 年 4 月 9 日 (火) ～ 21 日 (日)

美術講座 静物デッサン（講師:岩田 史朗さん）
対象を描くための基本的な物の見方を教わりながら、鉛筆・木炭を使ってデッサンを描きます。
期　間：　2024 年 4 月 20 日（土）

美術講座 日本画（講師：黒澤 正さん）
辰年にちなみ、墨を使って龍の水墨画に挑戦します。
期　間：　2024 年 4 月 21 日（日）

開催講座・展覧会レポート

ワークショップ　展覧会　講座

美術講座「静物デッサン」
2023 年 10 月 12 日（木）、10 月 14 日（土）
講師：岩田 史朗さん

市在住の洋画家 岩田史朗さんによる静物デッサンの講座と、油彩画の歴史に関する講義を行いました。ワインボトルやリンゴなどのモチーフを円錐や球の形に分解して描くことを学びました。

川口市制施行 90 周年・旧田中家住宅 100 周年記念展覧会
盆栽　BONSAI
ー川口の盆栽と安行の四百年ー
11 月 3 日（金・祝）～ 11 月 26 日（日）

川口は、安行地域を中心におよそ四百年の歴史を持つ、盆栽園の一大集積地です。展覧会は、旧田中家住宅と二館同時開催し、アトリアでは、盆栽と現代美術のコラボレーション、旧田中家住宅では伝統的な盆栽飾りを展示。会期中にはおよそ 100 点の盆栽と、安行小学校にお借りした安行原の蛇造り、川口の盆栽師などを紹介しました。

苔玉どろだんご作り
11 月 14 日（火）
講師：飯村 冬美さん（はちす葉）

盆栽の制作工程のうち、「植え替え」や「苔はり」を学びながら、ピラカンサ、苔、泥を組み合わせ、自分だけの苔玉を作りました。

川口市特別支援学級合同作品展
12 月 6 日（水）～ 12 月 10 日（日）

市内小学校 36 校・中学校 17 校の特別支援学級の児童・生徒たちが、図工・美術の授業で制作した作品を発表しました。絵画、ポスター、粘土、手芸や照明器具などの作品が並びました。
主催：川口市立小中学校特別支援学級設置校長会
川口市教育委員会

美術講座
「透明水彩で「木々」を描く
ー水彩技法を学ぶー」
12 月 21 日（木）、12 月 22 日（金）
講師：村山 之都さん

透明水彩の絵の具で、水彩画の技法のうち、マスキング、にじみ・ぼかしを体験しました。透明水彩ならではの色の重なりや偶然性などを学びながら、木々の写真を参考にＦ４サイズの作品を仕上げました。

アートな年賀状展 2024
2024 年 1 月 7 日（日）～ 1 月 14 日（日）

市民の皆さんのオリジナル年賀状を展示しました。切り絵や、絵の具で龍を描いたり、幾何学模様で「辰」の文字を表現したものなどがありました。

辰の冒険すごろく
1 月 14 日（日）
講師：玉掛 由美子さん（∞工房）

スタジオ全面に広がった辰のスゴロクで、マス目の指令を考えたり、参加者自身が駒になって遊びました。

川口の美術家たちのアートな毎日
1 月 17 日（水）～ 1 月 21 日（日）

鋳鉄を素材とした彫刻作品やキューポラを題材とした油彩画、日常のくらしの中にあるささやかな感動の瞬間をとらえた写真など、26 名の作家による 55 作品を展示しました。
主催：川口市美術家協会

中学生の ART CLUB 作品展
1 月 27 日（土）～ 2 月 4 日（日）

市内の中学校 18 校のアートクラブの生徒 374 名が、日頃の活動の成果を発表しました。絵画やポスター、イラストなどの平面作品や、ボックスアートなどの立体作品が並びました。展示作業を自分たちで行った学校もありました。
主催：川口市教育委員会

川口市小･中･高校生書きぞめ展覧会
2 月 8 日（木）～ 2 月 12 日（月・祝）
主催：川口市教育研究会書写部

川口の図工美術まなび展
2 月 17 日（土）～ 2 月 25 日（日）
主催：川口市教育委員会

SNS やってます！

Instagram…@art-gallery-atlia
日々のギャラリーでの出来事や、イベントのレポートを更新中。アトリアの雰囲気を覗いてみて下さい♪

LINE
ギャラリーに関する様々な情報を配信中。ご質問やお問い合わせもお気軽にどうぞ！

X(旧 Twitter)…@artatlia
企画展やワークショップ、イベント等、アトリアの最新情報はこちらをチェック！

Facebook
Facebook も更新中！こちらもぜひご覧下さい。

企画展・イベントの
最新情報やレポートを発信中！
フォローをお願いします♪

川口市立アートギャラリー・アトリア

開館時間…10:00 ～ 18:00（最終入場 17:30）
休館日…月曜日 (祝日の場合は翌火曜)、年末年始、施設整備期間

駐車場はありませんので公共交通機関をご利用下さい
JR 川口駅（京浜東北線）東口より徒歩約８分

〒332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76
TEL 048-253-0222
https://atlia.jp/

ATLIA Kawaguchi Art Gallery

編集後記

今年も、ワークショップや展覧会など、ティーンのみなさんも楽しめる、わくわくするような企画を準備中です。「こんな体験がしてみたい！あんなアートが見たい！」などもぜひお聞かせくださいね。

川口市立アートギャラリー・アトリア
ATLIA NEWS for TEENS
編集：岡村春香、溝口亜紗、吉田ひとみ、武井智子、宮澤和気
発行日：2024 年 2 月
発行：株式会社 21 世紀文化芸術研究室

アーティストインタビュー　Vol.5

美術家　市川 裕司さん

美術家の市川裕司さんは、箔や墨など、日本の伝統的な美術の素材に、現代の私たちの生活になじみのあるプラスチックといった人工素材を組み合わせて、空間を活用した迫力のあるインスタレーション作品などを制作。2012年には旧田中家住宅で展覧会を開催したり、美術館やホテルのエントランスに作品が飾られたりするなど、さまざまな場で活躍をされています。
3月9日から始まるアトリアの展覧会では、しだれ桜をテーマにした作品を展示します。
そんな市川さんに、美術家を志したきっかけや、どんな子供時代を過ごしたのか、また作品の裏側にある思いをお聞きしました。

いちかわ　ゆうじ
市川 裕司

1979　埼玉県嵐山町生まれ
2003　多摩美術大学
美術学部 絵画学科 日本画専攻 卒業
2005　多摩美術大学大学院
美術研究科 絵画専攻 日本画領域 修了
2012　五島記念文化賞 美術新人賞 受賞
五島記念文化財団海外研修員として
ドイツ・デュッセルドルフに滞在（-2013）

主な展覧会
2011　「New Vision Saitama 4 静観するイメージ」
埼玉県立近代美術館（埼玉）
2012　「ガロン 第２回展・日本背景」
旧田中家住宅（埼玉）
2018　「現代日本画へようこそ」
太田市美術館・図書館（群馬）
2023　「META2023」
神奈川県民ホールギャラリー（神奈川）
「加山又造と継承者たち－新たな地平を求めて－」
浜松市秋野不矩美術館（静岡）

〈TO BE ALIVE〉2023

市川裕司さん HP　「世界樹」
https://genetic12.jimdo.com/

多くの人を包み込む作品を。

未知なるものへの手触りを求めて

――市川さんの作品は、天井から吊ってあるような大きなものが多いですよね。実際に作品を目の前にすると、圧倒される感じがありながらも、圧迫はされず、まるで観ている自分が作品と一体になれる宇宙空間にいるような印象を受けました。

これらは透明で薄いタイプのポリカーボネートという素材に、アルミ箔を貼っており、その透過と反射の作用によって不思議な空間の広がりを感じさせているのかもしれません。

――「世界樹」の作品シリーズでは、リンゴの形に抜かれた箔が一面に貼られているように、市川さんの作品にはリンゴが多く登場しますが、なぜなのでしょうか？

作中のリンゴは〝人〟を示すもので、多くのリンゴによって世界を表しています。世界中で親しまれるリンゴは、アダムとイブの物語に登場したり、アルファベットを習う時に「A」に例えられていたり、有名なスマートフォンのシンボルにもなったりしています。そうした既視感が、作品と観ている人とのコミュニケーションを深めてくれるといいなと思っています。

――最近は、〈EARTHLING〉など、宇宙をテーマにした作品にも取り組んでいますね。

もともと科学の分野が好きなので、作品の中で生命や宇宙といった未知の領域に、想像を膨らませることを楽しんでいます。

古生物の研究者になろうと思っていた

――子供の頃から、美術は好きだったのですか？

絵を描くことは好きでした。小学二年生の時に、学校で「一本杉の天狗様」という物語の朗読を聞いて絵にする課題があり、そこで描いた作品が埼玉県の美術展で特選に選ばれました。さらにその作品は、僕が卒業するまで校長室の外壁に飾ってもらえたので、描くことへの大きな自信につながりました。

――それから美術大学に入るまで、どのように美術と関わっていたのですか？

美術大学への進学を決めるまでは、僕の中にはアートとか美術という考えはまったくなくて、ただ遊び感覚で絵を描いていただけでした。中学高校の時はテニス部で、部活動が生活の中心でしたし。その一方で、アノマロカリス＊をはじめとする古生物がすごく好きで、そうした研究をするために理系の大学に進もうかなとさえ思っていました。

――古生物のどんなところに惹かれたのですか？

部分的にしか発見されていない化石から、CGによって復元された姿を見て、ワクワクしましたし、自分でも勝手に空想上の生物を考えてイラストを描いて楽しんでいました。友人たちと化石掘りにも行っていましたね。

〈Remote〉2020、〈Japanese Tree Ⅲ〉2019

〈TOKYO BAY AREA STORY〉2020　Mesm Tokyo, Aughtograph Collection（東京都港区）

――想像を膨らませてビジュアル化するというのは、今の作品制作に通じるものもありますね。理系に進むことも考えていたのに美術大学に進学されます。何かきっかけはあったのですか？

古生物の研究にも魅力を感じていたのですが、ずっと続けていくなら古生物を描く美術のほうが面白そうだなと思ったんですね。それから、高校の美術の先生に相談して、美術の予備校に通うことになり、一年間の浪人生活を経て多摩美術大学に進学しました。

日本画にときめき、日本画をうやまう

――今の市川さんの作品からはあまり想像ができませんが、美術大学では日本画を学んだそうですね。

はい。予備校でたった一冊しかなかった日本画の画集が田淵俊夫＊という作家の作品で、それを見て日本画にときめいたんです。とにかくシンプルに線と色だけで、ものの存在や気配を表現するすごさに感動しました。そして絵の技術を磨くならまず日本画を学ぶことからだと思い、日本画を専攻したわけです。

――日本画というと花鳥風月や歴史上の人物を描くというイメージがありますが、大学で日本画を学び、現在のスタイルにいたるまで、やはり葛藤はあったのでしょうか？

そうですね。とにかく日本画は様式や作法が重んじられていて、学べば学ぶほど、作品のあり方が、過去の歴史にしばられているように感じてしまいました。それでこのままの方向性で日本画の勉強を続けていいものかと考えることも多くなったんですね。また、僕が大学生だった2000年代の初めごろは、村上隆＊が国際舞台でセンセーショナルに活躍しだし、公募団体の組織に属さず個展で発表する作家にもスポットが当たり始めてきた時期だったので、表現方法や作家活動のスタイルについても、ずいぶんと考えさせられました。

――それから、箔や墨など日本画の要素を残しつつ、金属や合成樹脂など日本画にはない素材を組み合わせたりするようになっていったのですか？

そうです。僕の場合、例えば描く地を和紙から透明材に代えたら色はどう見えるようになるのかとか、まっすぐに立てるべき屏風を斜めに折ったら全然違う立体になるのではないかとか、あくまでも日本画を解体・再構築する中で創作の面白さを追及するようになりました。

浮遊するリンゴが幻想的な作品内部

巨樹のような感動を

――市川さんの作品は広がりのあるダイナミックなものが多いですが、なぜ大きな作品を作られるのでしょうか？

全身を包み込むような自然のスケール感を、自分の作品で再現したいからですね。学生のころ、越生にある上谷の大楠や、正法寺の大銀杏、入西の柏槙など、近隣の巨樹を巡っては、その言葉にならない神秘的な身体感覚を作品にしてみたいという欲求にかられました。その方法のひとつとして、巨樹のスケールを、自分の作品で物理的な大きさとして表しています。

また、ドイツに留学している時にクリスト＊の作品に出会いました。それは巨大なガスタンク内に膨らませた高さ90メートルもあるバルーンで、そのバルーンの内部に入って作品を鑑賞できるようになっていました。そこで、たくさんの人がくつろぎながら、光に溶けるようなバルーンの天井を眺める姿を見て、いつか自分もこんな感動を与えられるような作品を作りたいと思ったんです。

――アトリアでは、高さ4メートル、幅10メートルのしだれ桜をモチーフにした作品を展示してくださいます。とても楽しみにしています。ありがとうございました。

（取材・岡村春香）

＊アノマロカリス：約5億年前、海に生息していた節足動物。当時としては大型の生き物で「カンブリア紀最強の捕食者」と呼ばれることもある。
＊田淵俊夫：日本画家。東京藝術大学名誉教授。代表作に〈叢叢讃歌〉〈緑風〉など。
＊村上隆：アーティスト、キュレーター。日本美術とアニメなどの現代文化を融合させた理論「スーパーフラット」を発案。代表作に〈五百羅漢図〉など。
＊クリスト：ブルガリア生まれの現代美術作家。物を梱包する作風で知られる。妻のジャンヌ＝クロードとともに活動。代表作に〈包まれた海岸線〉〈ヴァレー・カーテン〉など。2020年没。